

# 平安京右京三条一坊二町跡・壬生遺跡

2023年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 平安京右京三条一坊二町跡・壬生遺跡

2023年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、コープ二条駅店建替計画に伴う平安京跡・壬生遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

令和5年3月

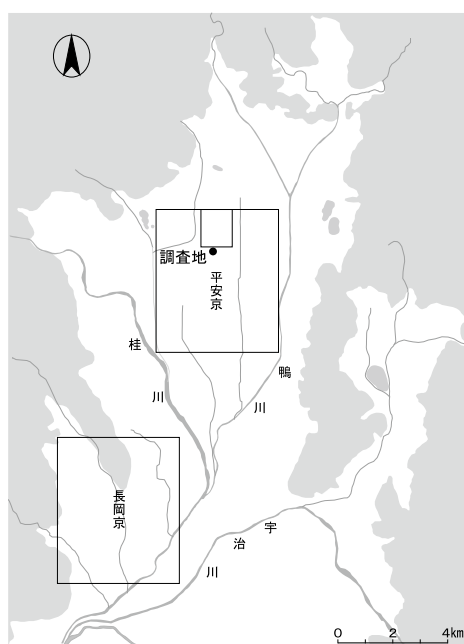
公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- 1 遺 跡 名 平安京跡・壬生遺跡（京都市番号 21 H 681・22 H 010）
- 2 調査所在地 京都市中京区西ノ京星池町230番地ほか6筆
- 3 委 託 者 京都生活協同組合 専務理事 高倉通孝
- 4 調査期間 2022年8月17日～2022年9月9日
- 5 調査面積 112㎡
- 6 調査担当者 樋口武志・伊藤 潔・柏田有香
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「聚楽廻」・「壬生」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 種類ごとに通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 樋口武志
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。

(調査地点図)



# 目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	2
2. 位置と環境	3
(1) 歴史的環境と立地	3
(2) 既往の調査	3
3. 遺 構	7
(1) 基本層序	7
(2) 江戸時代の遺構	7
(3) 近現代の遺構	7
4. 遺 物	9
(1) 遺物の概要	9
(2) 土器類	9
(3) 瓦類	10
5. ま と め	11

# 図 版 目 次

図版1	遺構	調査区平面図（1：80）
図版2	遺構	調査区北東壁断面図（1：50）
図版3	遺構	1 調査区全景（北西から） 2 土坑2（北から） 3 溝6、土坑7（北から）
図版4	遺物	出土遺物

## 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：5,000）	1
図2	調査区配置図（1：600）	2
図3	調査前全景（南から）	2
図4	作業状況（北から）	2
図5	周辺調査位置図（1：2,500）	4
図6	溝6セクション断面図（1：30）	7
図7	土器実測図（1：4）	10
図8	瓦拓影及び実測図（1：4）	10

## 表 目 次

表1	周辺調査一覧表	5
表2	遺構概要表	7
表3	遺物概要表	9



# 平安京右京三条一坊二町跡・壬生遺跡

## 1. 調査経過

### (1) 調査に至る経緯

本調査は、コープ二条駅店建替計画に伴って実施したものである。調査地は京都市中京区西ノ京星池町230番ほか6筆に位置し、平安京右京三条一坊二町跡、弥生時代の遺跡である壬生遺跡に当たる。右京三条一坊二町は穀倉院推定地である。

本調査に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）が試掘調査を行った結果、平安時代の押小路南側溝推定位置において溝状遺構が確認された。これを受けて、文化財保護課は京都生活協同組合に指導を行い、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受け、発掘調査を担当することとなった。

今回の調査目的は、試掘調査や周辺の調査成果から、右京三条一坊二町、穀倉院、押小路に関連する遺構の確認と歴史の変遷を明らかにすることである。

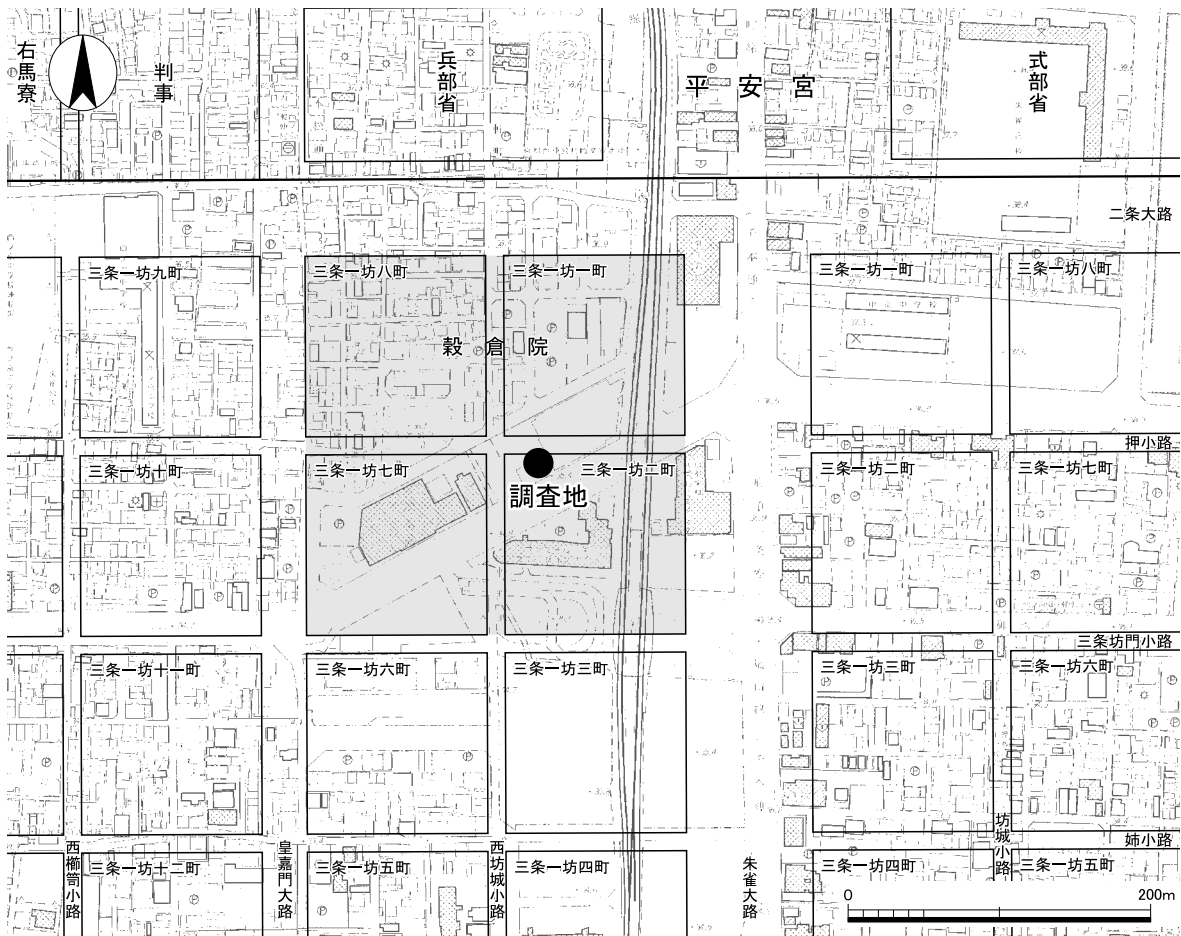


図1 調査位置図 (1 : 5,000)

## (2) 調査の経過

2022年8月17日に調査を開始した。調査面積は112㎡である。調査は現代盛土や近現代の耕作土を重機を用いて掘削し、遺構の検出や掘削は人力で行った。調査では、明治時代以降の溝、土取り穴群、江戸時代の溝を検出した。検出遺構については、実測図の作成、写真撮影などの記録作業を行った。調査後は埋め戻しを行い、2022年9月9日にすべての現地作業を終了した。調査中は適時、文化財保護課の検査指導を受け、検証委員である京都市立芸術大学の畑中英二教授の視察を受けた。

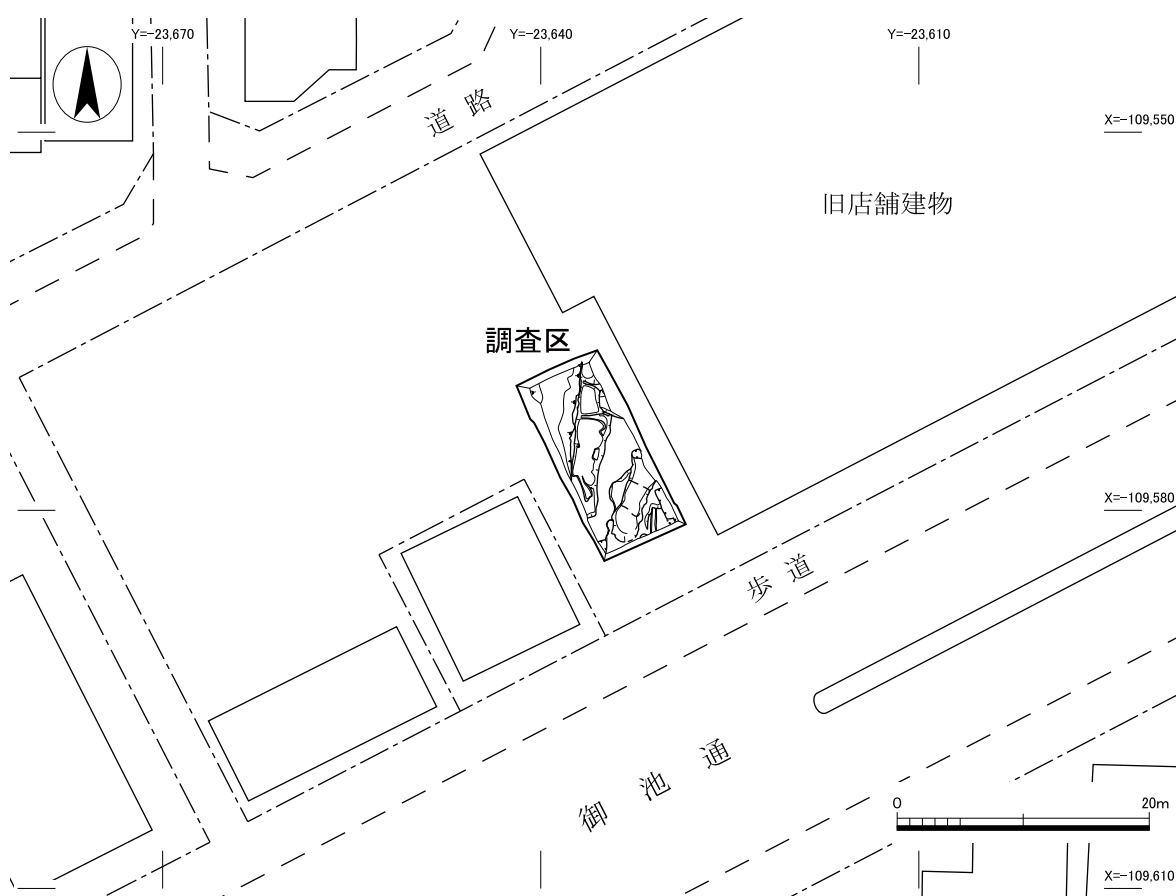


図2 調査区配置図 (1 : 600)



図3 調査前全景 (南から)



図4 作業状況 (北から)

## 2. 位置と環境

### (1) 歴史的環境と立地

今回の調査地は、平安京右京三条一坊二町の北西部に当たり、調査区北側は押小路を含む。

右京三条一坊二町は、一・七・八町を含めた4町規模の敷地に穀倉院があったとされる。穀倉院は、国家が管理する穀物備蓄のための施設である。史料としての初出は、『日本後紀』大同三年九月十六日条の記事である。大同年間（806～810年）に設置されたとされ、非常備蓄用の穀倉として始まり、京中の窮民対策に重要な役割を果たした。9世紀後半以降、律令財政機構の変質に伴いその機能を拡大したが、平安時代後期には衰退したと考えられている<sup>1)</sup>。

中世に入ると、調査地周辺の土地は徐々に田畑へと転換していったと見られる。近世の絵図<sup>2)</sup>を確認すると一帯は空白地となっており、耕作地として利用されていたことがうかがえる。

近代に入り、明治30年（1897）に京都鉄道<sup>3)</sup>の二条-嵯峨間が開業して二条駅が開設されると、その西側は当調査地を西限として、転車台や貨物車両の引き込みなどのバックヤードとして利用された。ただし、当地より西側は耕作地となっており、昭和30年以降の高度経済成長期に入ると、宅地化が急速に進む。それまでは、住宅はまばらに建つ程度であった。

### (2) 既往の調査（図5、表1）

調査地周辺では、これまでに多数の調査を実施している。主な調査成果については図表にまとめた。以下では穀倉院の範囲である右京三条一・二・七・八町とその周辺について発掘調査の成果を記述する。

#### 平安時代以前

当調査地は、弥生時代から古墳時代の遺物散布地とされる壬生遺跡<sup>3)</sup>の範囲にあたる。地点20で自然流路、その続きと見られる湿地状堆積が地点19・26・27で検出された。縄文時代では、地点15の1区でサヌカイト製の石鏃が出土している。弥生時代では、弥生土器や石器の破片が広い範囲から少量出土している。古墳時代では、地点15の2区で石製模造品、2・5区で中・後期の須恵器が出土している。これらの遺物は、池や湿地状の堆積土中から出土していることから、自然流路により上流から運ばれてきたと考えられている<sup>4)</sup>。

#### 平安時代

条坊関連の遺構は、南北道路では朱雀大路・西坊城小路・皇嘉門大路、東西道路では二条大路・三条坊門小路の遺構が検出されている。朱雀大路については、地点17・23で西側溝・内溝・築地などを検出している。西坊城小路については、地点16・20・26で両側溝・築地・路面などを検出している。皇嘉門大路については、地点15の4区で東側溝、5区で造成時の整地層と路面を検出している。二条大路については、地点6の5区で堆積土が硬化した面として路面を検出している。三条坊門小路については、地点2・12・20・26・27で南北両側溝・築地・路面などを検出している。



図5 周辺調査位置図 (1 : 2,500)

平安時代前期の遺構は、地点2では土坑・落込・流路、地点5では2間×3間以上の大規模な掘立柱建物、地点4・7・12では柱穴、地点8では建物・柵・溝・土坑・柱穴、地点14では南北に底のある身舎2間×5間の建物、地点15では柵、地点18・26では池、地点22では土坑、地点27では湿地状堆積やそれに付属する畦・土手状遺構などを検出している。

平安時代中期の遺構は、地点4では建て替えによる3棟以上の重複が想定される建物・柱穴・土坑・井戸・溝、地点12では柵、地点15では池・建物・柵・柱穴などを検出している。

平安時代後期の遺構は、地点4では重複した建物・柱穴・溝、地点12では井戸、地点15では池・溝などを検出している。

その他の遺構としては、六町域に1町規模の邸宅跡として、複数の建物・池・溝・集石を検出している。『拾芥抄』の付図「西京図」、地点19の池から出土した題箋や、地点26の池から出土した高杯の墨書から藤原良相の「西三条第」と考えられている<sup>4)</sup>。

表1 周辺調査一覧表

番号	遺跡名	遺 構	報告書
1	三条一坊六町	GL-1.14mで池あるいは湿地状堆積。	家崎孝治ほか『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局 1983年
2	三条一坊二・三町	平安時代以前:流路。平安時代前期:三条坊門小路南北両側溝・路面・北築地内溝、土坑、落込、流れ。平安時代後期:三条坊門小路北側溝・路面・北築地内溝、流路、土坑。室町時代～江戸時代:南北・東西小溝、東西方向柱穴列。	堀内 明「平安京右京三条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
3	三条一坊二町	鎌倉時代:湿地状堆積、ピット。江戸時代:溝、ピット、土坑。	吉村正親「平安京右京三条一坊1」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
4	三条一坊七町、穀倉院、壬生遺跡	平安時代前期:柱穴。平安時代中期:建物4棟、柱穴、土坑、井戸、溝。平安時代後期:建物4棟、柱穴、溝。江戸時代:池、土坑、溝。時期不明:流路(埋没は近代)。	平田 泰「平安京右京三条一坊3」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
5	三条一坊八町	平安時代:溝、掘立柱建物、土坑。中世:柱穴、土坑。江戸時代:井戸、土坑。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊4」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
6	三条一坊一町、二条大路	平安時代:堆積土硬化面(二条大路路面?)。室町時代:柱穴。江戸時代後期:柱穴、溝、土坑。近代以降:建物基礎、溝、土坑。	平田 泰ほか「平安京右京三条一坊5」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
7	三条一坊二町、穀倉院、西防城小路、壬生遺跡	平安時代以前:流路。平安時代:柱穴。平安時代中期:東西溝、柱穴。平安時代以降:柱穴、土坑、土取穴、溝。江戸時代:南北溝、東西溝、土坑、土取穴。近代・現代:土坑。	平田 泰「平安京右京三条一坊6」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所1996年
8	三条一坊七町、穀倉院、皇嘉門大路	平安時代前期(9C前半):溝、土坑、建物、柵、柱穴。江戸時代(18C以降):溝、柱穴、耕作土。	平田 泰「平安京右京三条一坊2」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
9	三条一坊二町	平安時代:溝、落込、整地層。鎌倉時代:溝、土坑、整地層。室町時代:溝、ピット。近世:溝、土坑、ピット。時期不明:溝、土坑、ピット、落込。	小檜山一良「平安京右京三条一坊1」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年
10	三条一坊六町	平安時代前期～中期:池。平安時代後期:池。中世:土坑。近世:溝、柱穴(柵列)、ピット。	伊藤 潔ほか「平安京右京三条一坊2」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年
11	三条一坊二町		未報告 関西文化財調査会
12	三条一坊二町	平安時代前期:三条坊門小路北側溝。平安時代中期:三条坊門小路北側溝・路面・南側溝、柵列。平安時代後期:三条坊門小路北側溝・路面・南側溝、井戸。鎌倉時代:溝、土坑。近世:溝、小溝群、土坑。近代:ターンテーブル、アッシュピット、井戸。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊1」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999年
13	三条一坊三町	平安時代以前:自然流路。平安時代前期:礎石建物、掘立柱建物、溝、井戸、落込、柱穴。平安時代中期:溝。平安時代後期:溝、柵列。鎌倉時代:溝、土坑。江戸時代～近代:南北溝、小溝群、土取穴。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊2」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999年
14	三条一坊七町、穀倉院	平安時代前期:建物、柱穴。平安時代中期:柱穴、溝、池。平安時代後期:井戸、池。鎌倉時代:溝、池。室町時代前期:溝、池。江戸時代:池。	平田 泰「平安京右京三条一坊3」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所1999年
15	三条一坊七町	平安時代前期:路面。平安時代中期:路面、柵列、柱穴、池。平安時代後期:池。鎌倉時代:池、溝。江戸時代:溝。	吉村正親「平安京右京三条一坊4」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999年
16	三条一坊三・六町	平安時代:柱穴、溝、土坑。近世:井戸、土坑、溝。近代:井戸、土坑、建物。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊1」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2000年
17	三条一坊三町、右京職	弥生時代?～:流路。平安時代前期:建物、井戸、溝、柵、整地層、瓦落ち。平安時代末期:建物、井戸、溝。近世・近代:建物、溝。朱雀大路の西側溝及び右京職の一部を確認する。	平尾政幸ほか『平安京右京三条一坊三町(右京職)跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-3 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2003年
18	三条一坊七町	平安時代:池、東西溝、土坑。中世:池、南北溝、湿気抜き暗渠、土坑。江戸時代:南北溝、湿気抜き暗渠。時期不明:湿気抜き、土坑。	尾藤德行ほか『平安京右京三条一坊七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-1 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2003年
19	三条一坊六町	平安時代:掘立柱建物、柵、柱穴、湿地状堆積。近世:溝、土坑。近代:土坑、建物、井戸。	本 弥八郎ほか『平安京右京三条一坊三・六・七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-5 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年
20	三条一坊三・七町	弥生時代:自然流路。平安時代:建物、三条坊門小路路面・北側溝・南側溝、溝、築地、瓦溜、土坑、柱穴。江戸時代～近代・現代:井戸、土坑、溝、柵。	本 弥八郎ほか『平安京右京三条一坊三・六・七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-5 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年
21	三条一坊六町	平安時代前期:池。平安時代後期:ピット。近世・近代:溝。	本 弥八郎ほか『平安京右京三条一坊三・六・七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-5 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年

番号	遺跡名	遺構	報告書
22	三条一坊七町	平安時代～中世:土坑、柱穴列、柱穴。江戸時代:土坑(土取穴など)、耕作溝、南北溝、柵。	布川豊治『平安京右京三条一坊七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-3 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2004年
23	三条一坊二町	平安時代前期:溝。平安時代末期～鎌倉時代:溝、湿地状堆積など。江戸時代:耕作溝、湿地状堆積、土坑など。江戸時代末～近代:溝、土坑など。	能芝 勉ほか『平安京右京三条一坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-6 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2004年
24	三条一坊六町	平安時代前期～中期初頭:土坑、柱穴群、柵列、掘立柱建物1棟、柱穴列、整地土。中世～近世:土坑、耕作溝、耕作土。	布川豊治『平安京右京三条一坊六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-13 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2006年
25	三条一坊六町、壬生遺跡、西三条第(百花亭)	園池遺構、土坑、柱穴。	水谷明子ほか『平安京右京三条一坊六町・壬生遺跡－西三条第(百花亭)跡－』古代文化調査会 2009年
26	三条一坊六・七町、西三条第(百花亭)	弥生・古墳時代:湿地状堆積。平安時代前期:七町南内溝、西坊城小路西側溝、建物、柱列、井戸、溝、池、整地。平安時代中期:三条坊門小路北側溝。平安時代後期:三条坊門小路南側溝。江戸時代前期:三条坊門小路南側溝、溝。幕末期:溝、土坑多数、柱穴多数、耕作溝多数。	丸川義広ほか『平安京右京三条一坊六・七町跡－西三条第(百花亭)跡－』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-9 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2013年
27	三条一坊六・七町、壬生遺跡	弥生時代～飛鳥時代:流路、高まり。平安時代:掘立柱建物、柱列、柱穴、畦、土手状遺構、北築地、南築地、池、溝、土坑、土手状高まり、土器埋納遺構、集石、整地層、湿地状堆積、耕作土。	西田倫子ほか『平安京右京三条一坊六・七町跡、壬生遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2020-10 (公財)京都市埋蔵文化財研究所 2021年

### 鎌倉時代から桃山時代

地点3では湿地状堆積・柱穴、地点5では土坑・柱穴、地点6では柱穴、地点9では溝・土坑・整地層、地点14では鎌倉時代から室町時代の東西方向の溝、地点15では池・溝、地点23では平安時代末期から鎌倉時代初頭の溝・湿地状遺構などを検出している。

### 江戸時代以降

各地点で耕作に関する溝が検出されている。条坊に重複する位置で確認された溝は、地点7・8・24で検出している。地点2・12では小溝群、地点20・22では南北溝を検出した。井戸は地点5・20で検出している。地点15の3・4区では南北0.5mの段差による区画を検出した。その他、各調査地を横断する東西・南北の柵を検出している。

### 註

- 1) 吉岡眞之「穀倉院」『平安時代史事典』 角川書店 1994年
- 2) 『慶長昭和京都地図集成－1611(慶長16)年～1940(昭和15)年－』 柏書房 1994年  
『京圖鑑綱目:名所手引』1754(宝暦4)年 国際日本文化研究センター所蔵
- 3) 『京都市遺跡地図台帳 第8版』 京都市文化市民局 2007年
- 4) 丸川義広ほか『平安京右京三条一坊六・七町跡－西三条第(百花亭)跡－』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2011-9 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序 (図版2)

基本層序は、現地表面から-0.6mまでが現代盛土で、その下-0.6~-1.1mが耕作土層、さらにその下は地山となる。地山は暗灰黄色細砂からなる。

調査は、地山上面で行った。遺構は江戸時代と近現代のものがある。

#### (2) 江戸時代の遺構 (図版1)

**溝6** (図6、図版3) 調査区南東側で検出した。検出規模は東西4.2m、南北6.3m、深さ0.4m。南は調査区内で閉じており、北側は調査区外へ延びる。

#### (3) 近現代の遺構 (図版1)

**溝1** 調査区西側で検出した南北方向の溝である。検出規模は東西約3.7m、南北9.1m、深さ1.4m。溝の幅は、西肩の立ち上がりを調査区西隅で確認したが、正確な規模は不明である。南北は調査区外に延びる。汽車土瓶が出土した。

**土坑2** (図版3) 溝1の東肩に隣接して検出した。検出規模は東西2.9m、南北9.7m。土取りと考えられる。底面には凹凸があり、一つの凹みは、東西約2.5~2.9m、南北約1.7~2.5m、深さ約1mの規模のものが南北方向に連なっている。土取りの作業単位と考えられる。

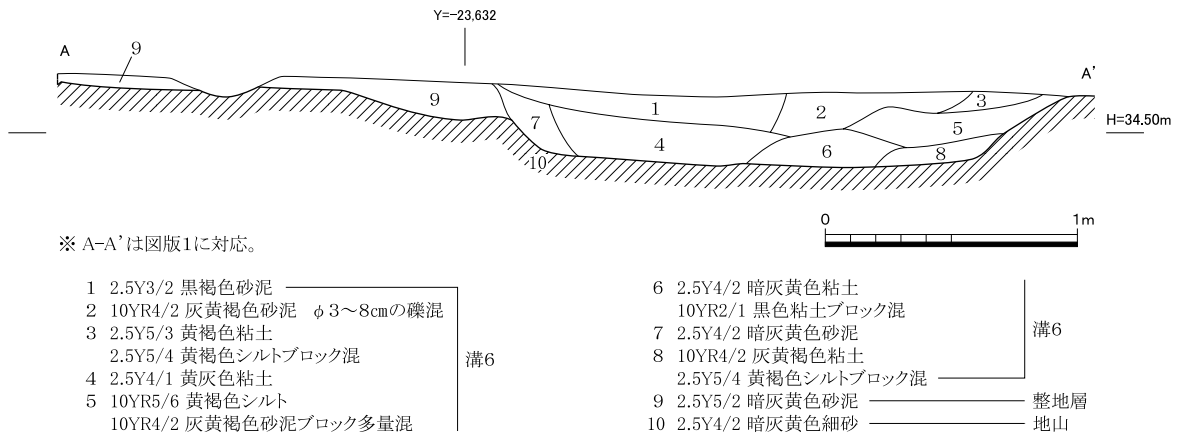


図6 溝6セクション断面図 (1:30)

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
江戸時代	溝6	
近現代	溝1、土坑2・7	

土坑7（図版3） 調査区の東側で検出した。検出規模は東西2.2m、南北4.0m。土取りと考えられる。底面には凹凸があり、一つの凹みは、東西約1.9～2.2m、南北約2.4m、深さ0.6mの規模のものが土坑2と同様に南北方向に連なっている。土取りの作業単位と考えられる。土取りの作業単位は2単位分を確認した。南は調査区内で終わり、北は調査区外へ延びる。土坑一単位あたりの平面規模が土坑2と類似している。遺物は出土していない。



## 4. 遺物

### (1) 遺物の概要 (表3)

遺物は整理コンテナ撮りに5箱出土した。種類は、平安時代の須恵器・緑釉陶器・軒丸瓦・瓦、江戸時代の土師器・焼締陶器・施釉陶器・染付・磁器・輸入陶磁器・瓦、明治時代から昭和の施釉陶器 (汽車土瓶)・タイルがある。

なお、土器編年の型式は、平尾政幸氏編年案に準拠した<sup>1)</sup>。

### (2) 土器類 (図7、図版4)

**溝6出土土器 (1～4)** 1・2は土師器の皿Nである。1は11A段階、2は11C段階に属する。3は緑釉陶器の小型椀底部である。底部は糸切りのまま仕上げられている。4は焼締陶器の甕である。文様が入っているが、種類は不明。常滑産である。

**土坑2出土土器 (5・6)** 5は施釉陶器の香炉である。頸部から口縁部にかけて外反する。外側は全体に釉薬がかかるが、内側は口縁部から頸部まで施釉される。産地は不明である。6は施釉陶器の小椀である。内側は全面、外側は腰部まで施釉される。汽車土瓶に付属するものと考えられる。信楽産である。そのほかの遺物には平安時代の須恵器・緑釉陶器、江戸時代の土師器・焼締陶器・施釉陶器・染付・磁器、近現代のタイルなどがある。小片が多く図示には至らなかった。

**溝1出土土器 (7～12)** 7～9は施釉陶器の蓋である。いずれも摘みを含め上面のみ全体に施釉される。7には上面に花の文様が描かれている。汽車土瓶の蓋と考えられる。10は施釉陶器の小椀である。内側は全面、外側は腰まで施釉される。汽車土瓶に付属するものと考えられる。11・12は施釉陶器の土瓶である。土瓶は「キ」と呼称される蓋を支える返りが内側にあることから内キ土瓶と分類される<sup>2)</sup>。製法は手回しロクロによる成形である。本体側面には駅名が書かれており、「福知山 (反対側：ふくちやま)」「綾部 (反対側：あやべ)」と漢字・ひらがなでそれぞれの側面に右から左に向かって書かれている。この様式の土瓶は、昭和22年以降は横書きの字を読む方向が左

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	須恵器、緑釉陶器、軒丸瓦、瓦		緑釉陶器1点、軒丸瓦1点		
江戸時代	土師器、焼締陶器、施釉陶器、染付、磁器、輸入陶磁器、瓦		土師器2点、焼締陶器1点、施釉陶器1点、		
近現代	施釉陶器、タイル		施釉陶器7点		
合計		6箱	13点 (1箱)	0箱	5箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

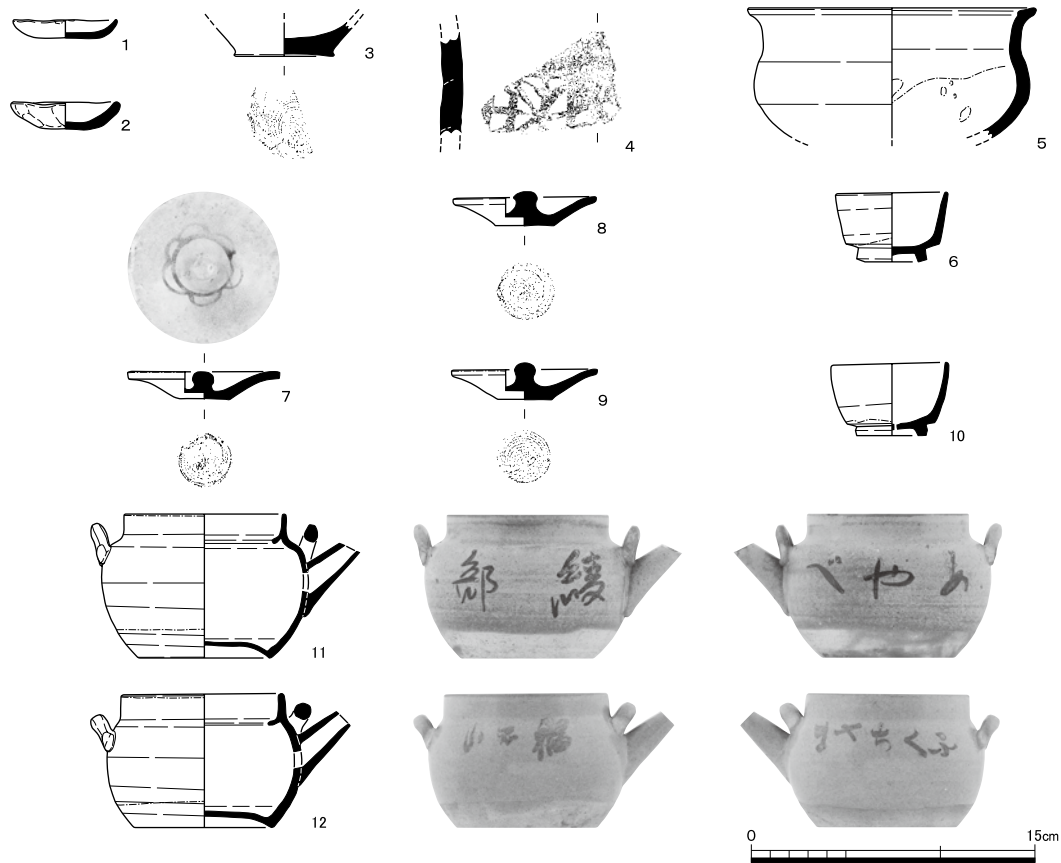


図7 土器実測図（1：4）

からに変わり駅名を入れなくなっていったこと、手回しロクロによる生産も同時期に廃れることから、この土瓶は昭和22年以前に作られたものである。<sup>3)</sup> 7～12はいずれも信楽産。

(3) 瓦類（図8、図版4）

軒丸瓦（瓦1） 土坑2から出土した。蓮華文軒丸瓦である。一本造り技法による成形で丸瓦部から瓦当部にかけて布目痕があることから平安時代中期のものである。

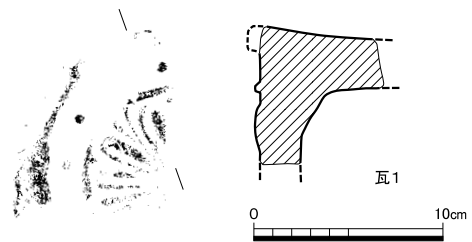


図8 瓦拓影及び実測図（1：4）

註

1) 平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年

750年	840年	930年	1020年	1110年	1170年	1260年	1350年	1410年	1500年	1590年	1680年	1740年	1800年	1860年
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C

2) 大川 清『汽車土瓶』 窯業史博物館 1995年

3) 畑中英二『別冊淡海文庫16 信楽汽車土瓶』 サンライズ出版 2007年

## 5. まとめ

江戸時代の遺構には溝6がある。『京圖名所鑑』（1778）では江戸時代後期の調査地は耕作地となっている。溝は調査地を南端として南北に掘削されている。耕作地と関連する遺構と考えられるが、性格は不明である。

近現代の遺構には土坑2・7と溝1がある。時期は溝1が新しい。土坑2は、近代の小椀やタイルなどが出土したことから、近代以降に土取りを行ったことがわかる。土坑7も層位や遺構の形状から、土坑2と同じ時期に土取りを行ったと推定する。江戸時代後期の調査地は、耕作地となっており、大正元年（1912）の正式地形図まで耕作地であったことが確認できる。土坑2・7は、近代のある時期に耕作地であった調査地で土取りを行い、再度耕作地として整備されたと考えられる。

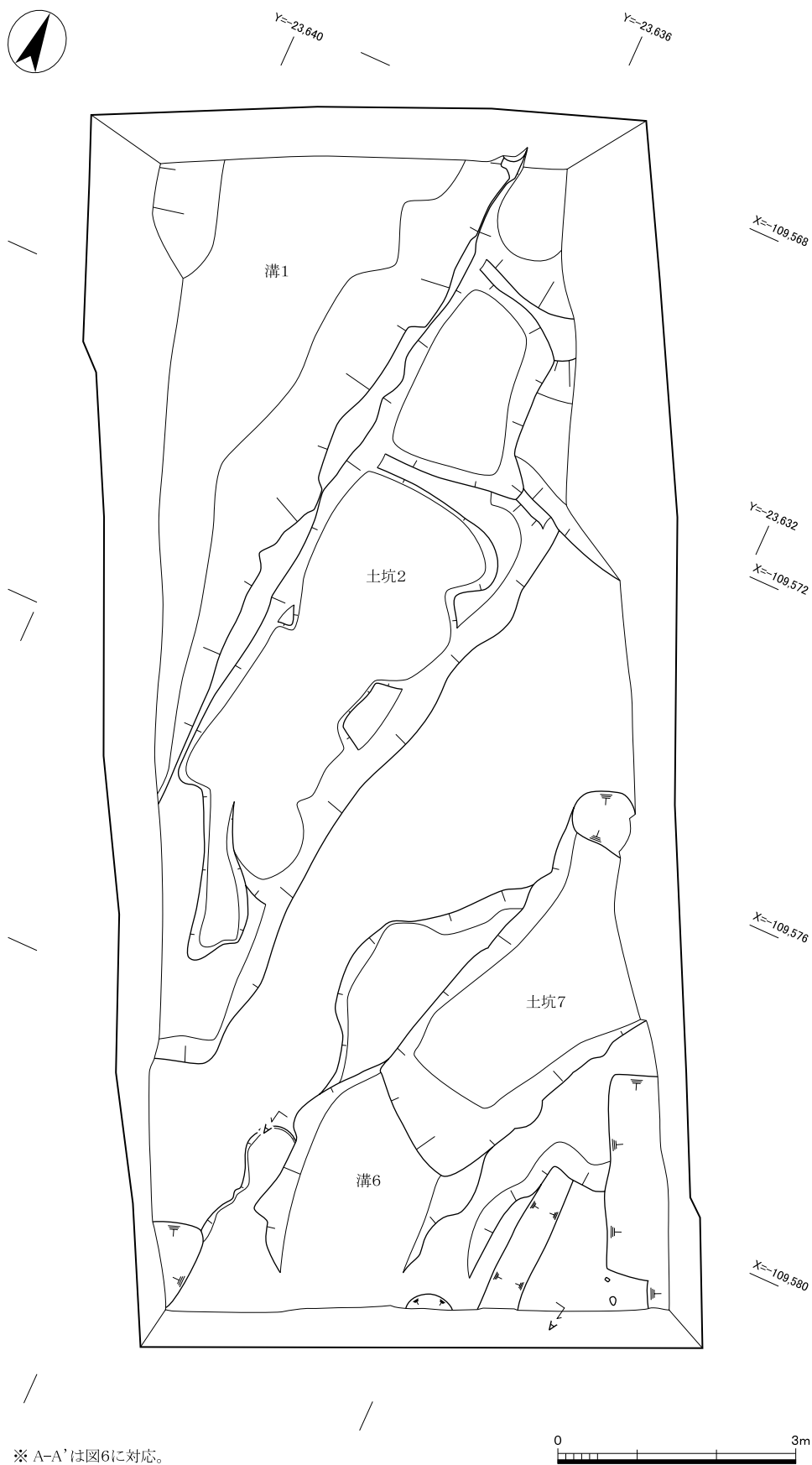
溝1は現代の遺構である。溝1は土坑2とほぼ並行して掘削されている。溝1・土坑2掘削以前にも何かしらの区割り（土地境界）が存在したと考えられる。明治25年（1892）仮製地形図（以下「仮製図」）では、溝1・土坑2が所在する場所に耕作地の境界を確認することができる。

溝1の成立は明治30年（1897）頃と考えられる。明治30年に京都鉄道の二条－嵯峨間が開通されるにあたり、当調査地を含む東側は京都鉄道の施設と二条駅が建設された。施設の西側は耕作地であり、仮製図で確認することができる千本通沿いにあった用水路が、線路によって分断され利用できなくなることがわかる。そのため用水路を旧二条通付近から分岐させ、二条駅西側に溝1を増設したと考えられる。大正11年と昭和4年の都市計画図を見ると、溝1周辺は徐々に宅地化が進んでいることが確認できる。このことから、溝1は昭和の頃には用水路としての機能を失っていたことがわかる。溝1は昭和28年（1953）の都市計画図まで確認できることから、これ以降に廃絶したと考えられる。



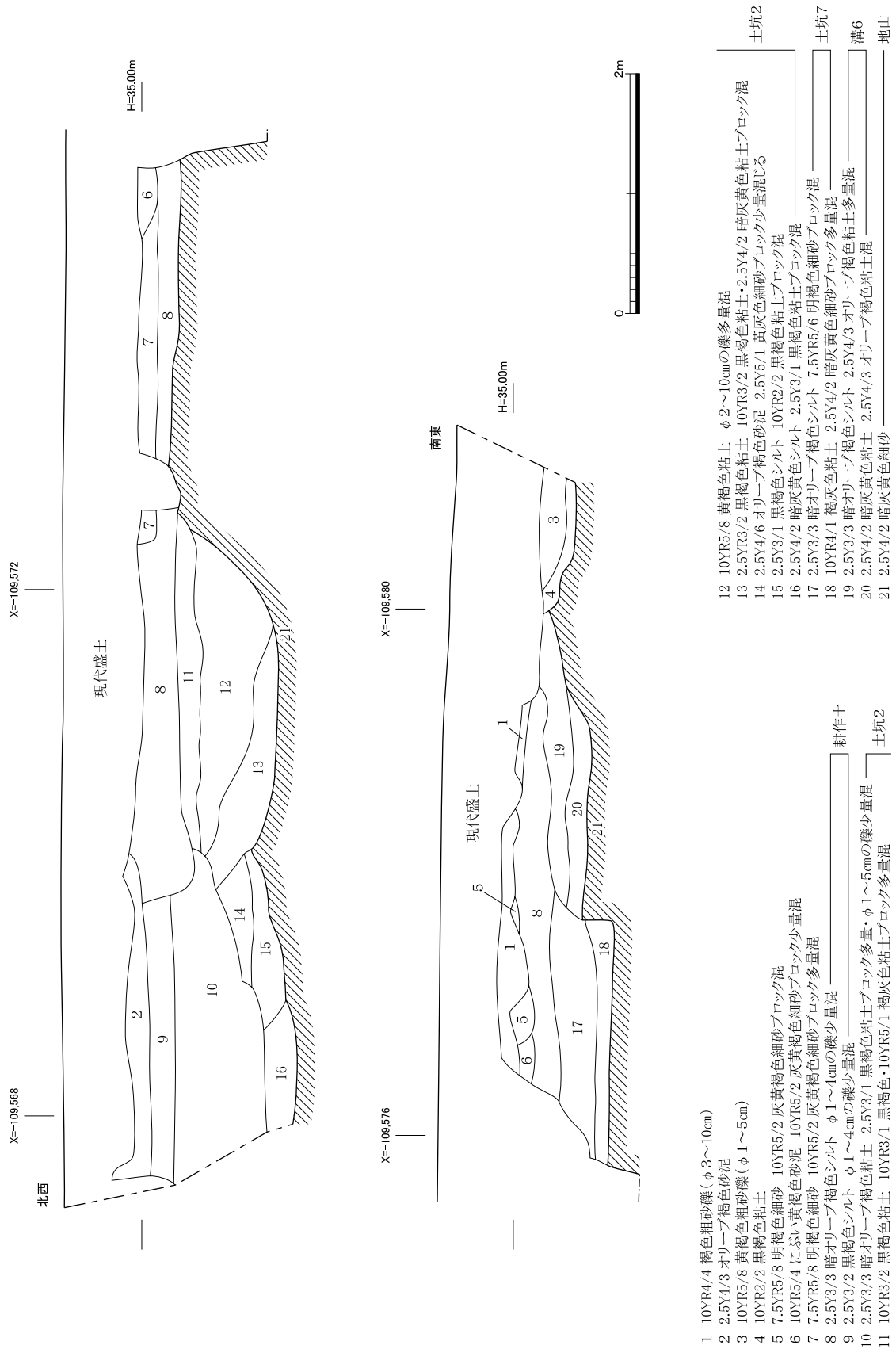
# 圖 版





調査区平面図 (1 : 80)

図版2 遺構



調査区北東壁断面図 (1:50)





1 調査区全景（北西から）



2 土坑2（北から）



3 溝6、土坑7（北から）



# 報告書抄録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょういちぼうにちょうあと・みぶいせき							
書名	平安京右京三条一坊二町跡・壬生遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2022-8							
編著者名	樋口武志							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2023年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡 みぶいせき 壬生遺跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 にしのきょうほしがいけちょう 西ノ京星池町  230番地ほか  6筆	26100	1  462	35度 00分 43秒	135度 44分 27秒	2022年8月 17日～2022 年9月9日	112㎡	店舗建替
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平安京跡	都城跡	平安時代			須恵器、緑釉陶器、軒丸瓦、瓦			
壬生遺跡	散布地	江戸時代	溝		土師器、焼締陶器、施釉陶器、染付、磁器、輸入陶磁器、瓦			
		近現代	溝、土取土坑		施釉陶器			

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2022-8

## 平安京右京三条一坊二町跡・壬生遺跡

発行日 2023年3月31日

編集行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273番  
〒602-8358 TEL 075-467-5151